

第三次計画 第二章：施策のレイアウト

施策1 確かな学力の育成

施策の柱(1) 学力向上の推進

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
②各種調査結果の分析・活用
③少人数指導の推進
④ICT活用の推進
⑤家庭学習の充実

■現状

・全国学力・学習状況調査及び諸調査の結果から課題を把握し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等の育成を図っています。

・川越市中学生学力調査では、3年生を対象に年3回、川越市独自の実態に応じた問題を作成し実施しています。

・「川越市小・中学生学力向上プラン」を策定し、教育委員会と学校が目標と指導方法を共有しています。

・学校指導訪問により、教員一人ひとりの指導力向上を図っています。

・小学校での教科担任制については、学校の状況に応じて実施されています。国から、令和4年度から教科担任制を小学校高学年で本格的に導入することが示されました。

・これまでの教育実践の蓄積とICTの効果的な活用をミックスしていくことで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を計画しています。

・学力向上の推進のため、各学校の課題に応じてオールマイティー*を配置しています。

■課題

・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、判断の根拠や理由を明確にした自分の考えを表現する力の育成が必要です。

・特に思考力・判断力・表現力等の育成に努める必要があります。

・全国学力・学習状況調査及び諸調査において、小学生及び中学生で、平均正答率が全国平均を下回っている学年・教科があるため学力向上対策が必要です。

・児童生徒の家庭学習に取り組む意識の差を埋める必要があります。

・各教科等の特質を踏まえた「対話・協働による学び合い」による授業改善が求められています。

・臨時休業にも、学習を保障できるように対応する必要があります。

※オールマイティー：積極的な生徒指導を推進し、子どもたちの心の教育や学力向上、いじめの未然防止等、各学校における様々な課題を解決するために配置する市費臨時講師。

■施策の内容

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着と、より一層の浸透を図ります。

・学校指導訪問により教員一人ひとりの指導力向上を図り、学校の教育力向上を目指します。

・学力向上に係る研修会を充実させ、令和2年度から同4年度までの3カ年計画で授業スタンダード「川越市小・中学生学力向上プラン」を確立し、教員の指導力を向上させます。

また、各学校の「川越市小・中学生学力向上プラン」の取組について共有を図ります。

・市立小・中学校に理科教育に係る支援員（理科実験助手）を配置し、実験・実習の準備や補助を行い、体験的な学習及び個別指導などの充実を図ります。

・小学校高学年での教科担任制導入を積極的に進められるよう、モデル校研究などを通して、教科担任制の導入を図ります。

②各種調査結果の分析・活用

・各学校に担当指導主事等を配置し、埼玉県学力・学習状況調査等の分析から、各学校の実態に応じた課題解決を図り、授業改善に活用します。

・全国学力・学習状況調査と埼玉県学力・学習状況調査において、小中連携校ごとに、実態に合った分析を行います。

・川越市中学生学力調査の結果分析により、学力向上・指導力向上及び進路指導の充実を図ります。

③少人数指導の推進

・児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育活動を推進するため、オールマイティー*を配置し、少人数指導やチーム・ティーチングなどの指導の充実を図ります。

・オールマイティー*による支援により、児童生徒の学び意欲と自己肯定感を高める、安定感と活力のある学級づくり、自分自身を素直に表現でき、自分や相手と率直に向き合える学級づくりを推進します。

④ICT活用の推進

・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習を推進します。

・ICTを活用した双方向型の授業を推進します。

・児童生徒一人ひとりの考えを共有し、多様な意見にも触れられるようにします。

⑤家庭学習の充実

・ICTを日常的・効果的に活用した家庭学習を推進します。また、長期にわたる臨時休業を実施した場合に、家庭にネットワーク環境がなく、かつ経済的に支援が必要な家庭に対して、モバイルWi-Fiルーターを貸与するなどして、家庭でICTを活用した学習を実施できるようにします。

・各種調査の結果の分析から課題を把握し、「川越市小・中学生学力向上プラン」に家庭学習の進め方を掲載し、家庭学習の充実を図るとともに、家庭学習に取り組む意識についても高めていきます。

第四次計画 第二章：施策のレイアウト（案）

施策

1 確かな学力の育成

施策の柱

(1) 学力向上の推進

細施策

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進

■現状と課題

●「川越市小・中学生学力向上プラン」により教育委員会と学校が目標と指導方法を共有し、ICTを効果的に活用するなど、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行えるよう、学校指導訪問などで教員一人ひとりの指導力向上を図っています。

●各教科等の特質を踏まえた「対話・協働による学び合い」による授業改善が求められており、知識及び技能の定着・習熟と、思考力、判断力、表現力等の育成について、バランスのとれた指導を行っていくために、ICTを効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの視点からの更なる授業改善が必要です。

■細施策の内容

担当課

教育指導課

●主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す川越授業スタンダードのより一層の定着と深化を図ります。

●学校指導訪問により、教員一人ひとりの指導力向上と、学校の教育力向上を目指します。

●学力向上に係る研修会で、川越授業スタンダードを活用した授業実践や、各種調査の分析方法、各校における学力向上に係る実践などを取り上げ、各学校の「川越市小・中学生学力向上プラン」の取組について共有を図るなどして、教員の指導力を向上させます。

●市立小・中学校に理科教育に係る支援員（理科実験助手）を配置し、実験・実習の準備や補助を行い、体験的な学習及び個別指導などの充実を図ります。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
国語、算数・数学の授業について	全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、国語、算数・数学の授業は分かったと回答した児童生徒の割合	83%	90%
学力を伸ばした児童生徒の割合	埼玉県学力・学習状況調査において、学力を伸ばした児童生徒の割合	62.5%	67.5%

- 第三次計画のレイアウトの問題点
- ①「施策の柱」単位で「現状」と「課題」をまとめて表記しており、次頁の個々の「施策の内容」における各細施策の「現状」と「課題」が把握しづらい。
- ②各細施策の担当課の表記が無いため、事業を所管する課がわからない。
- ③文章表現が多く、画像や写真による例示が無いため、事業のイメージが把握しづらい。
- ④細施策の指標が未設定

- 第四次計画のレイアウトの改善点
- ①「細施策」ごとに「現状」と「課題」を一枠にまとめ、内容をコンパクトに表記
- ②「細施策の内容」の担当課欄を新設
- ③「細施策の内容」に関連する写真や画像を必要な個所に挿入
- ④「細施策の指標」欄を新設

写真や画像を挿入

川越市小・中学生学力向上プラン

児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育活動を推進するため、オールマイティー*を配置し、少人数指導やチーム・ティーチングなどの指導の充実を図ります。

「学びの姿」を表現した「川越授業スタンダード」

「学びの姿」を表現した「川越授業スタンダード」